

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学研究科
大項目	5 学生の受け入れ (研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

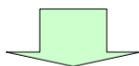
2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 3専攻12領域(後期課程11領域)の適切な収容定員について検討し、学生数を安定的に確保する。	→専攻別、入学定員充足率、領域別入学者数、在籍大学院生数と収容定員の割合。	B	B			
2. 新基本構想「垣根なきラーニングコミュニティ(学びと探求の共同体)」で学ぶ大学院生像を具体化する。	→大学院入試におけるアドミッション・ポリシーの明文化と周知度。	C	C			
3. 大学院受験者枠(一般・特別(外国人)・社会人・推薦)の募集方法および入学者選抜方法の適切性を確保する。	→各受験者枠における志願者、合格者、入学者の収容定員に対する割合。	B	B			
4. 文学研究科における科目等履修生制度を導入する。	→資格申請のために必須となる科目の特定化とWEB上シラバスでの科目等履修許可の明示。	C	B			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					



◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》**効果が上がっている事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	



《次年度に向けた方策(1)》**伸長させるための方策**

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》**改善すべき事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	



《次年度に向けた方策(2)》**改善方策**

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎**自由記述**

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	これまで導入を見送っていた大学院における科目等履修生制度を2010年度中に整備し、2011年度より募集を開始した。2011年度春学期の応募は結果的に1名にとどまったが、今後の積極的活用が期待される。
----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

Ⅲ. **学内第三者評価**

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○指摘されているように、特に後期課程の在籍学生数の減少が懸念されます。

【学内委員】

○学生の安定的確保のための努力は一定の成果を上げていると思われま。しかし、収容定員に対する在学学生数比率は100%を下回っており、引き続き努力することが期待されます。また、後期課程の入学者数が漸減していることが懸念されます。

○大学院生の減少は多くの学部で問題になっていると思います。学部生の中に進学を決めるよう努力が望まれます。

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことのわかる必要があります。そのためにも、小項目5.0.1については参照ではなく方針の内容を記載してください。なお、認証評価の際には方針の内容を報告書で明らかにすることが求められています。

○アドミッション・ポリシーの入試要項への記載について触れていただければと思います。

○大学院の定員管理は本学だけの問題にとどまらず難しい問題です。十分な議論と検討が必要です。

## 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

## ○小項目5.0.1

基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」

## ○小項目5.0.2

基盤評価：「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保証し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」

## ○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である（※）」  
(略)

「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」  
(略)

「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」  
(略)

「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」

## ○小項目5.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

## ○小項目5.0.1～5.0.3

達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のこと

- ・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性
- ・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

## IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目5.0.1について以下のとおり修整・追加記述を行う。

(方針の有無) 文学研究科は3専攻12領域(後期課程は11領域)を設けて、基礎領域および応用実践領域での研究者・高度専門職業人・知識基盤社会を支える知的な素養を持つ人材の養成と輩出を目指しており、その方針を「大学院総合案内」に掲載している。

(明示の有無) 関西学院大学大学院学則別表、大学院案内および文学研究科のホームページに掲載している。また、文学研究科入試要項の冒頭には「アドミッション・ポリシー」の項目を掲げ、前期課程においては「豊かな人間性と幅広い教養をそなえた高度専門職を養成し、さらに研究者養成の第一段階として高度な専門的知識を教授するとともに創造的な研究のための柔軟な思考能力と優れた技能を養成」すること、後期課程においては「高度な研究の継承とそれを創造的に推進する博士学位をもつ優れた研究者を養成」することを明示している。加えて年2回、大学院入試説明会を開催、配布資料による説明を行うとともに質疑応答の時間も設けて、大学院進学を考えている学生たちに、より直接的なかたちで文学研究科が求める「学生像」を伝えている。